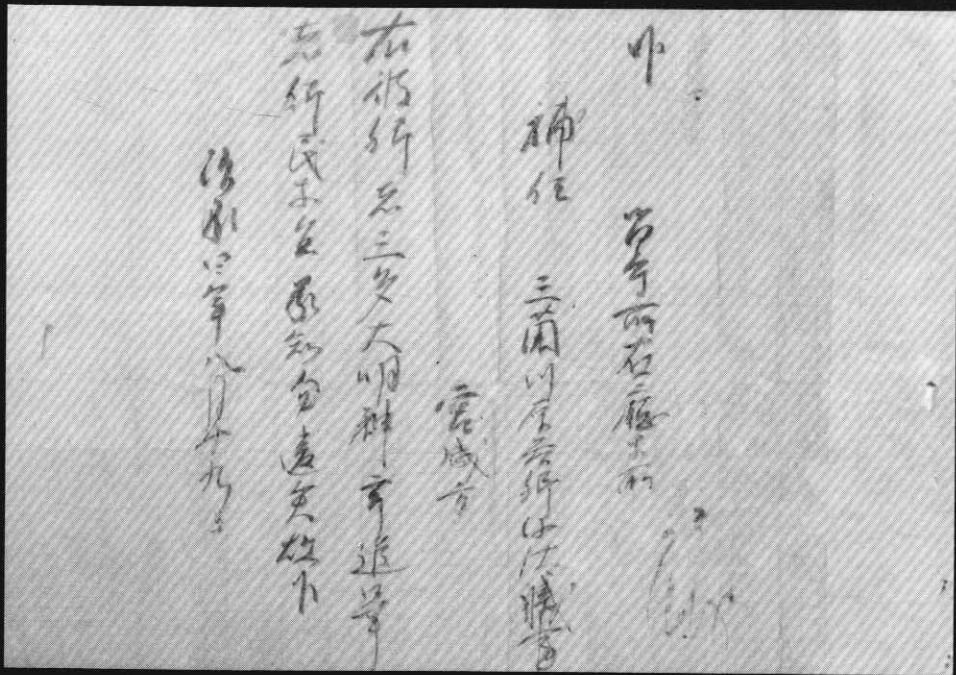


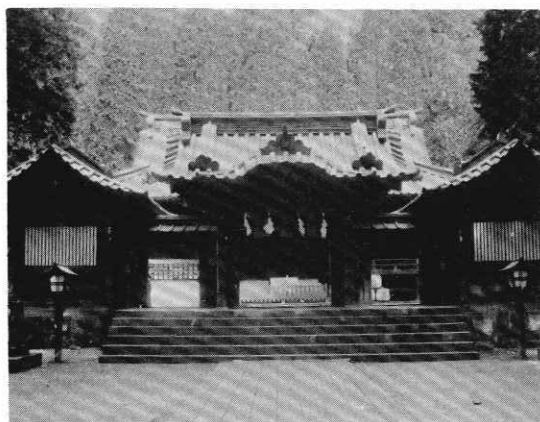
テーマ展

# 頼朝と郷土



寄進状 (三島市、三嶋大社)

頼朝、三嶋大社へ御園・川原ヶ郷を寄進する〈治承4年8月19日〉



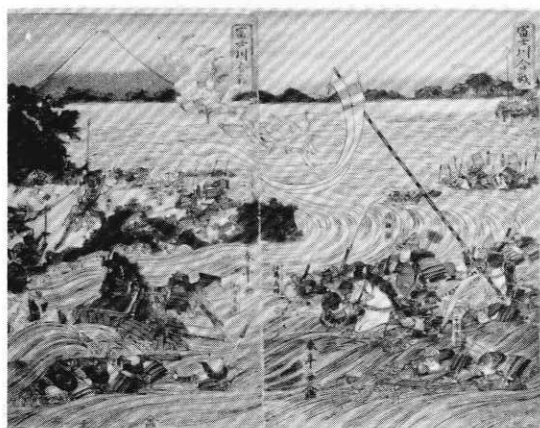
### 箱根神社 (箱根町)

「箱根権現」と称され、頼朝の厚い信仰を受けた。石橋山の戦いでは、敗走中の頼朝が一時箱根山金剛王院に逃れている。現在境内には頼朝の矢立杉の伝説が残っている。



### 伊豆山神社 (熱海市)

鎌倉時代から箱根神社と共に「二所」と呼ばれ、将軍、武士、庶民の厚い信仰を受ける。一説によると政子が平兼隆との結婚を嫌って、逃避した場所としても有名。



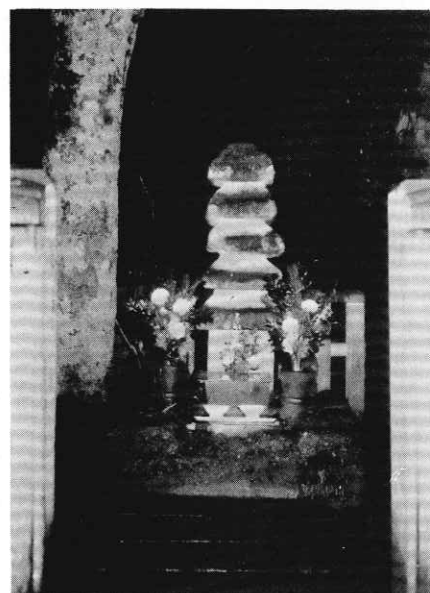
### 富士川合戦図 (三島市、土屋武久氏蔵)

飛び立った水鳥の羽音に驚いて逃げ出した頼朝追討軍の話は有名である。この合戦以後源氏は勢力を増強し、平家は西へ落ちることになる「天下分け目の戦」であった。



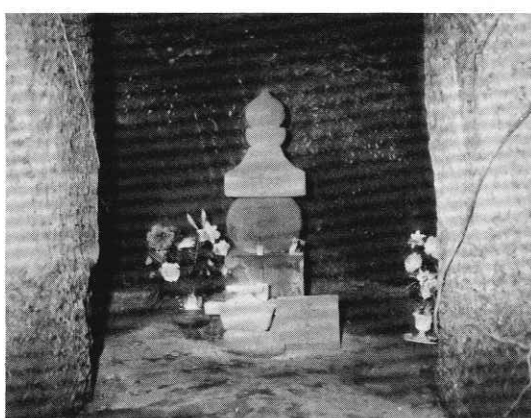
### 頼朝の巻き狩りの本陣 (富士宮市)

「狩宿」と呼ばれるこの家は、頼朝の富士野の巻き狩りの本陣と伝えられる。曾我兄弟が仇敵工藤祐経を、この巻き狩りに乗じて討った話がある。



### 頼朝の墓 (鎌倉市)

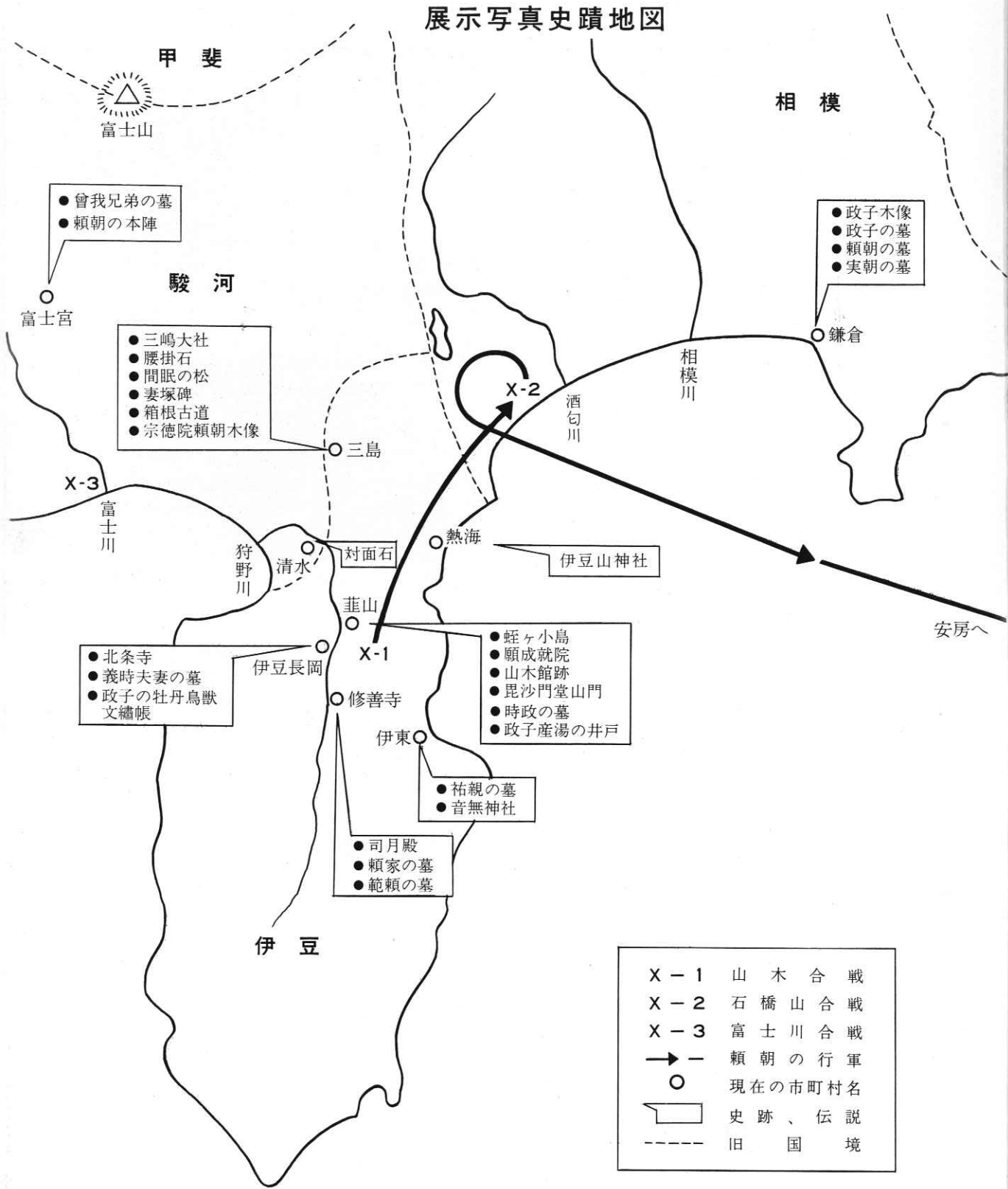
建久3年(1192)征夷大將軍に任命され、名実共に鎌倉幕府の体制を整えた頼朝は、数年後に、落馬が原因でその生涯を閉じた。正治元年(1199)正月13日、53才の時である。



### 政子の墓 (鎌倉市、寿福寺)

伊豆に生まれ、頼朝の妻となった政子は、頼朝の死後幕府の実権を握り「尼將軍」と言われた。政子の死は嘉禄元年(1225)、69才の時であった。

# 展示写真史蹟地図



甲斐



富士山

相模

駿河

- 曾我兄弟の墓
- 頼朝の本陣

富士宮

- 三嶋大社
- 腰掛石
- 間眠の松
- 妻塚碑
- 箱根古道
- 宗徳院頼朝木像

三島

- 政子木像
- 政子の墓
- 頼朝の墓
- 実朝の墓

鎌倉

相模川

酒匂川

X-2

X-3

富士川

狩野川

清水

対面石

熱海

伊豆山神社

安房へ

- 北条寺
- 義時夫妻の墓
- 政子の牡丹鳥獣文繡帳

伊豆長岡

葦山

X-1

- 蛭ヶ小島
- 願成就院
- 山木館跡
- 毘沙門堂山門
- 時政の墓
- 政子産湯の井戸

修善寺

伊東

- 祐親の墓
- 音無神社

- 司月殿
- 頼家の墓
- 範頼の墓

伊豆

X-1	山木合戦
X-2	石橋山合戦
X-3	富士川合戦
→	頼朝の行軍
○	現在の市町村名
□	史跡、伝説
- - -	旧国境



### 蛭ヶ小島 (葦山町)

平治の乱によって捕えられた頼朝が、池禪尼のはからいによって命を救われ、ここに流されたといわれている。現在は史跡公園となっている。



### 毘沙門堂山門 (葦山町)

頼朝の挙兵に影響を与えたといわれる文覚上人配流の地とされている。現在ここに建つ山門には、県重要文化財の二王像がある。



### 三嶋大社 (三島市)

三嶋大社は、頼朝の信仰を受けて大きな発展をした。現在社宝として、頼家の奉納した般若心経や政子奉納の蒔絵手箱など数多くの宝物が残っている。



### 腰掛石 (三島市、三嶋大社)

三嶋大社境内に在るこの石は、頼朝の腰掛石と言われるように、ちょうど一人一人が座れる腰掛型をしている。この地方には、頼朝を語る石の伝承が多い。



### 時政の墓 (葦山町、願成就院)

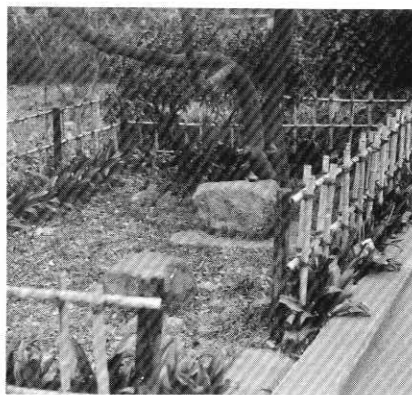
政子の父の時政は、田方郡北条の豪族であり流人頼朝の監視人であった。頼朝の死後、政子、義時と共に幕政に権力を振った。



### 頼朝旗上合戦山木判官之館夜討之図

(三島市、土屋武久氏蔵)

頼朝挙兵の第一戦の相手は、伊豆の目代平兼隆であった。治承4年(1180)8月17日夜のことで、三嶋大社の祭礼の日であった。



### 対面石 (清水町)

挙兵した兄頼朝のもとへ馳せ参じた弟義経。この悲運の兄弟が歴史的対面を行なった場所として伝承されている。

# 頼朝・政子関係年表

昭和54年3月1日 三島市郷土館編成

年月日	西暦	事象	年月日	西暦	事象		
久安 3	1147	頼朝生まる 母は熱田大宮司藤原季範の娘			服荘を与う(池禅尼から受けた恩の謝礼として)		
保元 2	1157	政子生まる	元暦 2 3. 19	1185	屋島の戦		
永暦元 3. 11	1160	頼朝伊豆に流され京都を発す。時に頼朝14才	3. 24		壇の浦の戦 平家滅亡す		
安元元 7.	1175	頼朝、伊東祐親に殺されんとし、伊豆山に走り更に韭山に逃げる	4. 20		頼朝 三嶋大社参拝 神主2家の分領を定む		
治承元 1. 1	1177	頼朝、箱根権現参拝の帰途鶯の初音を聞く(初音ヶ原) この年頼朝(31才)政子(21才)結婚 一説によると長女大姫この年生まる	文治元11. 1	1185	頼朝 黄瀬川に陣し、義経、行家に備う		
" 3	1179	平兼隆伊豆に流さる	12. 25		六代(平維盛の子)千本松原にて赦免さる(文覚上人による)		
" 4 4. 27	1180	頼朝 北条館において以仁王の令旨を受ける	" 2 2. 19	1186	伊豆国甘海苔を頼朝に献ず(これは伊豆の名産)		
" 5. 26		源三位頼政、子仲綱宇治平等院において自刃す	" 3 7. 18	1187	新田忠常の妻 江尻の渡(狩野川)において溺死す この年の前後 頼朝の命により時政三嶋大社造営		
" 6. 19		京都の三好康信より清盛潜在源氏の追討の企てあり、至急奥州に逃げるべき旨の急使を受ける	" 4 1. 20	1188	頼朝 3社参り 重臣 300騎の兵卒従う		
" 7. 24		源氏累代の家臣に対し、平氏追討の檄を発す(使安達藤九郎)	" 5 4. 30	1189	義経 平泉高館において殺さる 韭山 願成就院の上棟式行わる		
" 8. 6		奈古谷寺(国清寺)において平兼隆邸討ちの謀議行わる	6. 6		頼朝 奥州征伐に発す 伊豆の武士従う		
" 8. 17		頼朝拳兵 伊豆日代平兼隆を討つ	7. 18		建久元11. 9	1190	頼朝 上洛後白河法皇に謁す 権大納言兼右近衛大将に任ぜられ、次いで辞す
" 8. 18		頼朝 心経を三嶋大社、箱根、伊豆山権現など19社寺へ奉納 平兼隆の供養この日か? この日政子伊豆山へ入る(伊豆山を味方にするため)	建久元11. 9	1190	頼朝 上洛後白河法皇に謁す 権大納言兼右近衛大将に任ぜられ、次いで辞す		
" 8. 23		頼朝 石橋山に大庭景親と戦い大敗を受ける この戦で北条宗時、狩野茂光、佐奈田与一等戦死 頼朝箱根権現に逃げる	" 2 3. 1	1191	諸国に守護地頭を置く(伊豆の守護北条時政か)		
" 9. 2		政子 伊豆山より秋戸郷(阿岐戸)に潜む	" 3 1. 25	1192	頼朝 走湯山に参詣		
9. 22		頼朝 真鶴より海上房総に至る	7. 12		頼朝 征夷大将軍に任ぜられる		
10. 6		頼朝 追討使として平維盛都を発す	8.		実朝生まる		
10. 11		頼朝 関東を平定して鎌倉に入る	" 4 5. 8	1193	頼朝 駿河藍沢に狩す。ついで富士野に狩す		
10. 13		政子 頼朝に迎えられて鎌倉に入る	5. 16		頼朝 富士野に大鹿を射る(時に11才)		
		平軍 駿河手越に至る。甲斐源氏(武田信義ら)大石沢(上井出)に出兵 駿河国目代長田氏を降す	5. 28		新田忠常大猪を刺し殺す		
" 10. 18		頼朝 兵を率い黄瀬川に陣を取る	8. 17		曾我兄弟伊藤祐経を討つ		
19		この頃 大庭景親、伊東祐親、祐清ら源軍に降る	" 5 1. 29	1194	頼朝 伊豆に流され後殺さる		
20		頼朝 富士川東岸加島に出陣 平氏も西岸に陣す	1194	1194	政子 伊豆、箱根而権現参拝のため鎌倉を発す		
20		此の夜平軍鳥の羽音を誤認総崩れとなり西走す	建久 5 3. 5	1194	政子 上野局を三嶋神社に遣し千度詣りをなさしむ		
21		この日頼朝 義経と黄瀬川に於て対面す	11. 10		頼朝 神馬を三嶋神社に奉献す		
21		頼朝 戦勝を謝して三嶋大社へ神領を寄進す	11. 18		北条義時奉幣使として三嶋神社に詣す		
" 11. 15		頼朝 家臣のすすめにより鎌倉へ帰る この頃範頼遠江蒲荘より鎌倉に至り頼朝と対面す	" 6 2. 21	1195	頼朝・政子 子女を伴い上洛(奈良大仏供養のため)		
寿永元 1.	1182	頼朝 舟50艘を平家追討戦勝祈願として走湯山に寄進す	" 7 2.	1196	頼朝 伊東祐清の子祐光に伊豆川津荘を与え旧恩に報ゆ		
2. 14		頼朝 伊東祐親の罪を許す。但し祐親己をはじて自殺す	" 8 春	1197	頼朝 岡部泰綱に命じ曾我八幡宮を建たしむ		
8. 12		頼家生まる	7. 14		大姫死亡(19才)		
4. 25	1183	平家都落ち	" 9 12. 27	1198	頼朝 相模川橋供養の帰途落馬し病床に臥す		
" 3 1. 11	1184	木曾義仲追討のため義経、範頼西上す	正治元 1. 13	1199	頼朝薨ず(53才) 政子尼となる(43才)		
1. 20		義仲粟津に敗死す	6. 30		乙姫(頼朝二女)死亡(15才)		
3. 18		頼朝 伊豆奥野の焼鹿(狩獵)を行う	" 2 2. 8	1200	頼家 狩獵のため藍沢(伊豆佐野もその一部)に至る		
3. 19		頼朝 北条に入る	建仁 2 7. 23	1202	頼家 征夷大将軍に任命さる		
4. 5		頼朝 池大納言平頼盛に大岡荘、羽	" 3 7. 20	1203	頼家発病 三嶋神社に心経を奉納し平癒を祈る		
			9. 7		実朝将軍となる(12才)		
			9. 27		頼家 修善寺に流さる		
			元久元 7. 18	1204	頼家 修善寺に殺さる(23才)		
			承久元 1. 27	1219	実朝 公暁に殺さる(28才)		
			" 3 5.	1221	承久の乱起る 政子将士をさとす(65才)		
			嘉禄元 7. 11	1225	政子薨ず(69才)		

## 頼朝と郷土

鎌倉将軍源頼朝と私たちの郷土との因縁は浅からぬものがある。三島・葦山・伊豆長岡修善寺などの田方・中伊豆地方には、今でも語り継がれている数多くの頼朝伝説が残っていて、そのことを物語っている。

頼朝と郷土との関係は、永暦元年（1160）3月に始まる。平治の乱（1159）に敗れ、父義朝を失ない、平氏方の捕われの身となった頼朝は、死罪を免がれ伊豆に流されたのであった。若干14才の時であった。

それから20年後、治承4年（1180）8月17日を境に、頼朝は伊豆を離れて、鎌倉への第一歩を踏み出すのである。いわゆる旗上げ合戦と言われている、伊豆の目代平兼隆の山木館夜討であった。その日は、流人頼朝が20年間信仰を寄せてきた三嶋大社の秋の大祭の日でもあった。この合戦は見事な勝利を得て、頼朝は戦勝を喜び、三嶋大社・箱根・伊豆山権現など、19の社寺に般若心経を奉納している。

ところで、20年間の流謫中の頼朝は、青春の意気盛んな時代をこの地方ですごしたわけである。都とは比較にもならない片田舎の地で、頼朝はどのような日々をすごしたのであろうか。一説には、写経と読経念仏三昧の生活であったとも言われているが、明らかではない。ただ頼朝のロマンスの伝承は多い。伊

東の豪族である伊東祐親の末娘、八重姫との恋物語があった。祐親は、平清盛に命ぜられた、流人頼朝の監視人であった。当然ながら、この恋がハッピーエンドを結ぶものではない。祐親の怒りをかけて、頼朝は追われて伊豆山へ走り、八重姫は惨死し、二人の間に生まれた千鶴は殺されるという、まさに悲恋のストーリーイができたのである。

頼朝の妻となり、後に尼将軍と呼ばれ鎌倉幕府の大権を握った政子も、流人頼朝を監視する北条時政の娘であった。ここにもまた、雨中山道を越えて、伊豆山へ走ったという、政子の熱烈なラブロマンスがある。

以上のように、伊豆は、頼朝の青春のふる里とも言える所であった。

さて、旗上げ合戦に勝利した頼朝は、石橋山の戦いで敗れ安房に逃れたものの、再び陣を立て直し、治承4年10月には富士川において平氏の追討軍を追い払うことに成功し、以後一直線に鎌倉将軍への道を走り出すのである。頼朝が、別れた悲運の弟義経と対面したのは、この富士川対陣の後の黄瀬川の陣においてであったという。

一度敗走に転じた平氏は、その勢力を急速に弱めつつ、坂道を転げるように西へ西へと落ちて行った。決定的な天下分け目の戦いは、有名な壇浦合戦である。

そして、頼朝は、建久3年に征夷大将軍に補せられたのである。

### ※展 示 品 目 録※

#### 【版 画】（三島市大宮町 土屋武久氏）

- ①富士川合戦之図
- ②頼朝重臣之図
- ③頼朝安房へ逃レル図
- ④曾我兄弟ノ仇討之図
- ⑤頼朝旗上合戦・山木判官館夜討之図
- ⑥源平盛衰記・伊豆国山木合戦之図
- ⑦堀川夜合戦之図
- ⑧越後国ノ住人城四郎長茂平家ノ催促ニ從ヒ出陣ナス折カラ空中ニ怪異ヲ見ル図
- ⑨木曾義仲粟津落之図
- ⑩頼朝公伊豆之国合戦之図
- ⑪源義経出陣之図
- ⑫建久六年源頼朝卿上京之図
- ⑬曾我十郎祐成之図
- ⑭曾我五郎之図
- ⑮梶原平三景時之図
- ⑯弁慶・牛若丸之図

#### 【彫 刻】（三島市松本 山崎軌道氏）

- ①宗徳院の頼朝木像

#### 【写真パネル】

- 三島市 三嶋大社・寄進状・般若心経・腰掛石・政子の梅蒔絵手箱・経塚・頼朝木像・妻塚碑・箱根古道の古井戸
- 葦山町 山木館跡・蛭ヶ小島・毘沙門堂山門・願成就院・時政の墓
- 伊豆長岡町 北条寺・義時夫妻の墓・牡丹鳥獸文繡帳
- 修善寺町 司月殿・頼家の墓・範頼の墓・
- 清水町 対面石
- 富士宮市 曾我兄弟の墓・頼朝の本陣
- 熱海市 伊豆山神社
- 伊東市 祐親の墓
- 鎌倉市 政子像・政子の墓・頼朝の墓・実朝の墓
- 箱根町 箱根神社
- 京 都 頼朝画像

## 三島市郷土館